

Pièces de Clavecin

BOYER DUPHLY

CLAVECIN

Marie
Nishiyama



JOSEPH-NICOLAS-PANCRACE ROYER (c. 1703-1755)

PIÈCES DE CLAVECIN, PREMIER LIVRE

ジョゼフ＝ニコラ＝パンクラス・ロワイエ | クラヴサン曲集第1巻

①	La Zaïde, <i>Rondeau</i>	ザイード、 Rond	[6:38]
②	Les tendres Sentiments, <i>Rondeau</i>	優しい愛情、 Rond	[6:00]
③	Le Vertigo, <i>Rondeau</i>	めまい、 Rond	[6:19]
④	La Sensible, <i>Rondeau</i>	多感なひと、 Rond	[5:26]
⑤	La Marche des Scythes	スキタイ人の行進	[8:17]

JACQUES DUPHLY (1715-1789)

TROISIÈME LIVRE DE PIÈCES DE CLAVECIN

ジャック・デュフリ | クラヴサン曲集第3巻

⑥	La Forqueray, <i>Rondeau</i>	フォルクレ、 Rond	[7:08]
⑦	Chaconne	シャコンヌ	[9:00]
⑧	Médée	メデ	[5:31]
⑨	Les Grâces	三美神	[8:31]
⑩	La de Belombre	ドゥ・ブロムブル	[4:59]
⑪	Menuets	ムニューエ	[4:44]
⑫	La de Guyon	ドゥ・ギヨン	[4:55]

Pièces de clavecin, premier livre. (Paris, 1746)

Troisième livre de pièces de clavecin (Paris, 1756)

西山まりえ：クラヴサン

Marie Nishiyama: Clavecin

ロワイエ、デュフリ：クラヴサン作品集

Royer, Duphly: Pièces de Clavecin

収録：2024年9月 | 浦安音楽ホール

Recording Location/Date: Urayasu concert hall/September, 2024

Instrument:

Clavecin: Bruce Kennedy, Amsterdam, after Taskin, France 1769

A=392Hz

Producer/Engineer: Hironori Kosaka | Tuner (Clavecin): Moxam Kayano

KCD-2101 ©&© 2026 OMF DXD-Recordings DDD STEREO Total Time: 77'36" Made in Japan

《ロココ時代の最後を彩る、ロワイエとデュフリ》

石丸 裕実子 (音楽評論)

17世紀から18世紀にかけて、フランスは数多くのクラヴシニストを輩出した。フランス・クラヴサン楽派の創始者といえるシャンボニエール (c.1601/02-1672) に始まり、その後、ルイ・クーブラン (1626-1661)、ダングルベール (1629-1691)、ルベール (1631-1702)、マルシャン (1669-1732) らが登場、そしてフランソワ・クーブラン (1668-1733)、ラモー (1683-1764) で一つの黄金期を迎える。彼らが書いたクラヴサン音楽は、まるで次々と打ち上がる、個性豊かな大輪の花火のようだ。しかしながら多くの人々は、これらの打ち上がった花火がその後どうなるのか知らないのではないだろうか。実のところ、クラヴサンのために書かれた曲集がフランスで最後に出版されたのは1789年。そう、フランス革命のその年まで「クラヴサン」は生き続けたことになる。ルイ13世から16世まで、4代の王が統治した激動の時代を巡るヒストリー。こんなにドラマチックな楽器を、わたしはほかに知らない。

今回、西山まりえが取り上げるロワイエ (1703-1755) とデュフリ (1715-1789) は、フランス・クラヴサン楽派における“最後の花火師”と言っても過言ではないだろう。二人はそれぞれ異なる個性を持ちつつ、フランソワ・クーブランで完全に開花したクラヴサン音楽特有の繊細さや優雅さと、ラモー以降の作品に垣間見える明晰さや快活さ、そして現代ピアノ奏法を彷彿とさせる技巧性を備えた作品を書き残した。長年クラヴシニストたちは、音量や音質をタッチで変えることのできない楽器の特性を欠点として捉えていたが、ロワイエやデュフリは、作品を見ると、むしろその欠点を逆手に取り、クラヴサンにしかできないダイナミックな音楽表現を積極的に取り入れていることがわかる。それはもちろん、クラヴサンという楽器自体の発展とも関連しているが、同時に刻々と移りゆく時代背景とも密接に結びついている。彼らが活躍したルイ15世の統治下、社会そのものが以前とは違った方向に進もうとしていた。それまで王や貴族のために書かれていた音楽は、もはやそうではなくなりつつあった。この時期、まさに革命の芽がふくらみ始めていたのだ。

こういった過渡期のクラヴサン音楽に抗しがたい魅力を感じている西山はこれまで、激動の時代を生きたバルバトル (1724-1799) を皮切りに、アントワヌ・フォルクレ (1672-1745) とその息子ジャン＝バティスト (1699-1782)、そしてラモーによるクラヴサン曲集のレコーディングを行ってきた。そんな彼女が、ロワイエとデュフリを演奏したいと思うのはいわば必然である。奇しくも、デュフリが《クラヴサン曲集第3巻》を出版した1756年、古典派時代の象徴とも言うべき作曲家 モーツァルト (1756-1791) がオーストリアで誕生した。時代が大きく移り変わる中で、クラヴサン音楽は最後の強烈な煌めきを放ち、これまでにないほどの高みに達しようとしていた。

ジョゼフ＝ニコラ＝パンクラス・ロワイエは、1703年、サヴォイア宮廷で働いていた父親の仕事の都合でイタリア・トリノで誕生。フランソワ・クーブランのいとこであるマルク＝ロジェ・ノルマン・クーブラン(1663-1734)の元で音楽を学んだとされているが、初期の音楽歴は謎に包まれている。1725年にパリに居を移しクラヴサン教師として生計を立てていたロワイエは、同年に最初のオペラ作品を発表し、1730年には王立音楽アカデミーの監督に就任する。ここから怒濤の活躍をみせ、1734年にはフランス王家の子女のクラヴサン教師に就任、1748年に公開演奏会場であったコンセル・スピリチュエルの運営権を取得。1753年には王室シャンブルの楽長、王立音楽アカデミーのオーケストラ指揮者及び作曲家に任命される。この肩書からわかるように、ロワイエは当時、パリで最も重要かつ影響力のある音楽家の一人であった。

ロワイエによるクラヴサン曲集は1746年に出版された1冊のみ現存する。全14曲、3つの調(ニ長調/ニ短調、ト長調/ト短調、ハ短調)で構成され、そのうち5曲はロワイエ自身のオペラ《グラナダの女王ザイド》(1739)及び《愛の力》(1743)からの編曲である。ロワイエのクラヴサン曲には、ラモーからのあらゆる影響が認められる。それは、王立音楽アカデミーの監督時代に、ラモーの《イポリートとアリシ》(1733年)の初演に立ち会ったことと無縁ではないだろう。また、1724年に出版された、まるで劇音楽のように鮮やかなラモーのクラヴサン曲集の存在も知っていたはずだ。ロワイエは、ラモーの豊かなオーケストレーションや劇的なハーモニー、これまでにない新たなクラヴサン奏法に触発を受けたに違いない。いずれの曲も、多彩な情感表現と朗々とした歌、そして最大限のヴィルトゥオジテが認められる。曲集は、ロワイエがクラヴサンを教えていた「Mesdames de France」、つまりルイ15世の娘たちに捧げられた。

今回の録音のために、西山は5曲を選んだ。〈ザイド〉は、同名オペラの器楽アンサンブルを編曲したもの。第3幕第5場に現れる、フルートと2丁のヴァイオリンで美しく奏でられるエールが原曲で、緻密な表現で朗々と歌われる。〈優しい愛情〉は、豊かな装飾音で繊細な描かれたロンド。高音域の可憐な響きと、中低音域で奏でられるハーモニーの対比が印象的だ。〈めまい〉は、オリジナルのクラヴサン曲だが、どこか劇音楽を思い起こさせるような、ドラマチックな表現と技巧が散りばめられている。〈多感なひと〉は、多用されるシュスパンションが非常に効果的に響く一曲。幅広い音域で奏でられる音楽は、まるで繊細な女性的心変わりを映し出しているかのようだ。〈スキタイ人の行進〉は、オペラ《ザイド》の第3幕第5場の「トルコ人のエール」が原曲。編曲とはいえど使用されているのはテーマだけで、ありとあらゆる技巧が用いられており、果てしないファンタジーが繰り広げられる圧巻の一曲である。

ジャック・デュフリは、太陽王ルイ14世が亡くなり曾孫のルイ15世が即位した1715年に誕生し、フランス革命の引き金となったバスティーユ襲撃の翌日1789年7月15日に亡くなった、ロココ文化の最後を象徴する音

楽家の一人である。ルーアン出身で、地元のノートルダム大聖堂のオルガニストを務めていたフランソワ・ダジャンクール(1684-1758)に師事した。自身も教会オルガニストのポストに就くが、1742年、全ての職を辞しパリに移り住む。オルガンとクラヴサンの両方を演奏する音楽家が多かった中、デュフリはオルガン演奏が手指を駄目にするという理由から、クラヴサン一本に絞って活動した。ロワイエとは対照的に公職に就かず、クラヴサンの名手及び名教師として活躍。その生涯で全4巻のクラヴサン曲集を出版し(1744年、1748年、1756年、1768年)、同時代人からパリ随一のクラヴサン奏者として称賛された。しかしながら千変万化する時代の流れについていけなかったのか、最後のクラヴサン曲集を出版した後、デュフリの活躍は途絶えてしまう。その最期は寂しいもので、生涯独身を貫いた彼はパリの小さなアパルトマンの一室で息を引き取った。遺産目録には、もはや「クラヴサン」の記載はなかった。

4冊あるデュフリのクラヴサン曲集のうち、第3巻のみ献呈者がいない。1756年のメルキユール・ド・フランス誌に「彼の才能と功績はあまりに有名なので、ここで絶賛する必要はない。作曲者の名前だけで、称賛すべき作品だと分かる」と書かれていることから明らかであるように、当時のデュフリは献呈すべきパトロンや権力者を必要としないほど、クラヴサニストとして成功を取っていたのである。ロワイエと同様、デュフリもラモーの影響を強く受けていると同時に、ドメニコ・スカラッティ(1685-1757)からもインスピレーションを受けたのではないかと思わせるパッセージが随所にみられる。

今回、西山が選曲した作品は、第3巻からデュフリらしさが溢れる7曲である。〈folklore〉は、おそらくアントワヌ・folkloreの肖像であろう。ヴィオールの音色を表現するかのような、中低音域で演奏される美しいスティル・ブリゼが魅力的。デュフリの作品の中では長大な規模を誇る〈シャコンヌ〉は、決まった和声進行の中で様々な奏法が現れる、明るく華やかな一曲。〈メデ〉は、ギリシャ神話に登場する王女メディアのこと。デュフリはおそらく、コメディ・フランセーズでメデを演じ、大成功を収めた女優ラ・クレロン(1723-1803)を描いたのではないだろうか。縦横無尽に幅広い音域が用いられ、劇的な音楽が終始繰り広げられる。同じくギリシャ神話から、魅力・美・創造力を司る3人の女神を描いた〈三美神〉は、多彩な装飾音をふんだんに施し、クラヴサンが持つ美しさを最大限に引き出すことに成功している。〈ドゥ・プロムブル〉と〈ドゥ・ギヨン〉は、個性豊かなキャラクター・ピース。前者はラモー的な明晰さと直接的な表現が印象的な作品で、後者はデュフリの「優雅に、軽く」という指示通り、実にクラヴサンらしい繊細な筆致で作曲された一曲となっている。長調と短調の2曲の小さなメヌエットで構成される〈ムニユエ〉は、可愛らしくも洗練されたフランス・バロック風の舞曲である。



| 西山 まりえ チェンバロ

チェンバロと歴史カル・ハーブ、2種の古楽器を操る。ルネ・ヤコブス、ボブ・ヤング、パディ・モローニ、カルロス・ヌニェス、ミカラ・ペトリ、山下洋輔、藤原道山、森山開次など、幅広いジャンルに渡るアーティストとの共演も多い。王子ホール主催「銀座ぶらっとコンサート・西山まりえの歴女楽」シリーズ出演。新日本フィルハーモニー交響楽団「バッハ：ブランデンブルク協奏曲・全曲」ソリスト。IDホールディングス主催「The J. S. バッハ演奏会：ブランデンブルク協奏曲」ソリスト。

テレビ朝日「題名のない音楽会」BSテレ東「おんがく交差点」NHK-FM「古楽の楽しみ」「古楽器さんぽII」など、TV・ラジオや教養番組に出演。

CD「バッハ：トッカータ集」「バッハ：インヴェンション シンフォニア全曲」「バッハ：イタリア協奏曲 フランス風序曲」「スカルラッティ：ソナタ集」はすべて「レコード芸術」特選盤。「バッハ：イギリス組曲全曲」「バッハ：ゴルトベルク変奏曲」「バロックハーブとの出会い」は同誌準特選盤ほか、朝日新聞、毎日新聞で推薦。欧州発売「ファンタシアの奏法～イベリア半島の鍵盤音楽」は「リトモ」最優秀推薦盤。「トリスタンの哀歌」は「レコード芸術」誌準特選盤、「ステレオ」誌特選盤、「音楽現代」誌推薦盤、「朝日新聞視聴室」個性派盤に選ばれた他、「BURRN!」「フォーブス」「ミス」「サライ」「暮らしの手帖」など一般誌でも紹介される。「バルバトル：クラヴサン曲集 第1巻」朝日新聞推薦盤、「レコード芸術」誌特選盤、「バッハ：トッカータ集」令和元年度文化庁芸術祭参加作品、朝日新聞推薦盤、「レコード芸術」誌特選盤。

東京音楽大学ピアノ科卒業、同大学研究科修了後、ミラノ市立音楽院、バーゼル・スコラ・カントールムに留学。第11回山梨古楽コンクール・チェンバロ部門第1位、および 栃木[蔵の街]音楽祭賞受賞。「レコード芸術」誌「読者が選ぶビートル2007」、HMV2008年度「期待のアーティスト5名」に選出される。日本ハーブ協会運営委員。日本演奏連盟会員。日本チェンバロ協会会員。「信州アーリーミュージック村音楽祭」芸術監督。武蔵野音楽大学非常勤講師。